

1

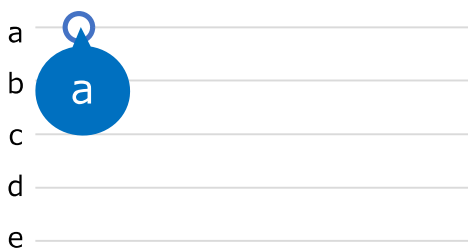
環境

< 政策分野の基本方針 >

豊かな地球環境を未来へ引き継ぐために、地球温暖化対策、生物多様性保全、ごみ減量等の課題に対し市民、事業者、地域団体、行政等のオール京都で、これまでの延長にとどまらない取組を実践し、2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」等の目標達成に向け、さまざまな政策分野において、自然との共生を楽しむ環境と調和した持続可能な社会の実現をめざす。

客観指標評価

市民・事業者の皆様による節電をはじめとする省エネルギーの取組、太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入拡大により、温室効果ガス排出量、エネルギー消費量共に前年度から削減が進み、ごみ量についても着実に減少したことから a 評価となったと考えられる。



令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

「マイバッグの利用やごみの分別・リサイクルの徹底など、ごみの出ない暮らしと事業活動が広がっている。」という生活実感が b 評価となっていることをはじめ、全体的に高い評価となっていることから、施策の周知が行き渡っており、またその効果が市民の実感にも表れていると考えられる。



令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」等の目標達成を目指しており、効果測定に客観指標の数値が直結するため、客観指標評価を重視する。

政策の総合評価



令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

客観指標評価が高評価となったことから、総合評価結果は A 評価となった。温室効果ガス排出量については、京都市地球温暖化対策計画に基づき、ライフスタイル、ビジネス、エネルギー、モビリティの4つの分野の転換や、森林・農地等の二酸化炭素の吸収源対策の強化等を図ることで、2050年「正味ゼロ」を目指す。また、ごみ焼却量については、引き続き、京都市循環型社会推進基本計画に基づき、市民・事業者の皆様と共に2R及び分別リサイクルの推進等に取り組むことで、更なる削減を進める。これらにより、基本方針にある環境と調和した持続可能な社会の実現を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、令和3年度評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「令和3年度政策評価結果（一覧）」のページを参照。

【令和3年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	温室効果ガス排出量削減率（％）	20.7	b	-	-	-	-
2	ごみ焼却量の削減量（万トン）	3.3	a	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			a	-	-	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			a	-	-	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	-	-	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	環境に配慮した行動を実践する社会になってきている。		b	-	-	-	-
2	様々な生き物が生息する良好な自然環境が保たれている。		b	-	-	-	-
3	マイバッグの利用やごみの分別・リサイクルの徹底など、ごみの出ないくらしと事業活動が広がっている。		b	-	-	-	-
4	暮らしの中で、環境について学び、実践する人が世代を問わず増えてきている。		c	-	-	-	-
5	-		-	-	-	-	-
6	-		-	-	-	-	-
7	-		-	-	-	-	-
8	-		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			b	-	-	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
6	-	-	-	-	-

2

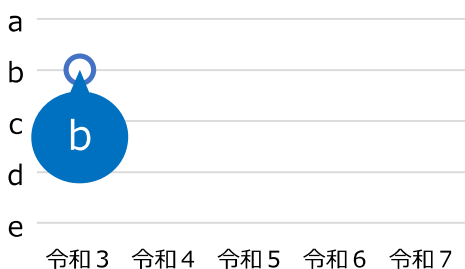
人権・男女共同参画

< 政策分野の基本方針 >

少子化、国際化、情報化、経済・雇用環境の変化などが進むなか、多様な考え方や生き方が迎え入れられ、個性と能力を十分に発揮でき、日々の交流のなかから一人一人が尊重され、より豊かな人間関係が育まれる誰一人取り残さない共生社会をめざす。

客観指標評価

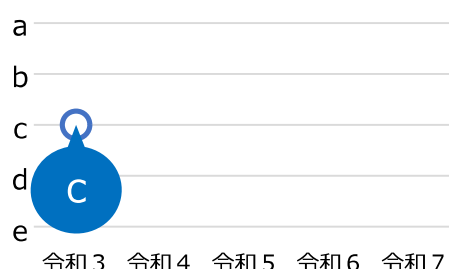
附属機関等における男女委員の登用に関する指標や、ワーク・ライフ・バランスを推進する認証企業数の指標では高評価となったが、人権相談件数の指標については、新型コロナウイルス感染症に関する不当な差別や偏見等の影響により悪化したと考えられ、全体ではb評価となった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

長時間労働や固定的な性別役割分担意識が根強く残っていること、DV被害者支援の取組は進んでいるものの、男女間等における暴力が根絶されているという実感には至っていないことなどから、c評価になったと考えられる。



(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

人権、男女共同参画、真のワーク・ライフ・バランスなど、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価



市民生活実感評価がc評価となったことから、総合評価結果はC評価となった。引き続き、様々な広報媒体を活用して人権啓発に取り組み、全ての人の人権を尊重する人権文化の構築を着実に推進していく。また、「真のワーク・ライフ・バランス」の推進のために企業啓発等を行うとともに、男女間等におけるあらゆる暴力を根絶するため、市民啓発やきめ細やかで切れ目のない相談・支援を行い、誰もがあらゆる分野で活躍でき、安心・安全に暮らせる男女共同参画社会の実現に向けて取り組む。これらにより、基本方針にある誰一人取り残さない共生社会の実現を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、令和3年度評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「令和3年度政策評価結果（一覧）」のページを参照。

【令和3年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	京都人権擁護委員協議会における人権相談取扱件数（件）	3,263	e	-	-	-	-
2	男女いずれの委員の登用率も35％以上の附属機関等の割合（％）	69.9	a	-	-	-	-
3	京都市DV相談支援センターにおける「課題解決」の割合（％）	63.2	b	-	-	-	-
4	「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス推進企業認証制度の認証企業数（社）	352	a	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			b	-	-	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			b	-	-	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			b	-	-	-	-

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	一人一人が互いを認め合い、多様な考え方や生き方を迎え入れて交流している。	c	-	-	-	-
2	様々な人に、いきいきと活動して自分の能力を発揮する場所や、自分に合った働き方を見つける機会がある。	c	-	-	-	-
3	男女間等における暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。	d	-	-	-	-
4	仕事と生活（家庭や地域活動など）をバランスよく充実できる社会になってきている。	c	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		c	-	-	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
24	-	-	-	-	-

3

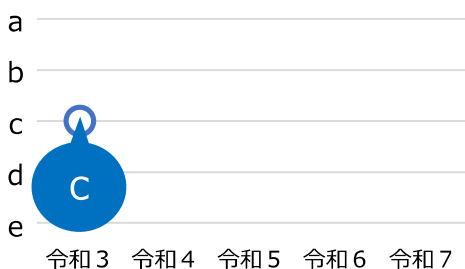
市民生活とコミュニティ

< 政策分野の基本方針 >

自治会・町内会などの地域団体をはじめ、地域企業、市民活動団体等が地域のさまざまな課題に対して、連携して解決に取り組むとともに、地域におけるさまざまな居場所や活躍の場づくりなどを進め、これを行政が支えることで、多様な地域コミュニティの活性化に向けたまちづくりを進める。

客観指標評価

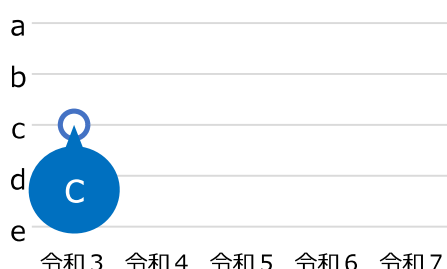
政策の客観指標である「自治会等加入率」及び「NPO法人数」が伸び悩んだことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響で、施策の客観指標である「地域活動の担い手づくりを主目的とした講座等への参加者数」が少なかったことなどから、c評価となったと考えられる。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

単身世帯の増加やライフスタイルの変化などにより、地域活動に参加する住民が減少し、住民同士のつながりが希薄化していることに加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人との交流機会が減少し、地域活動の中止や縮小を余儀なくされたことなどから、c評価となったと考えられる。



(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

地域活動への参加のきっかけ・しくみづくりや、コミュニティの活性化支援など、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価と市民生活実感評価が共にc評価となったことから、総合評価結果はC評価となった。コロナ禍にあっても、安心して地域活動に取り組んでいただけるよう、感染予防を講じて活動いただく「新しい地域活動スタイル」を普及させるとともに、地域におけるコミュニケーションの円滑化等につながるICTツールの導入支援を進める。また、地域団体とNPO等の市民活動団体、大学、地域企業など、あらゆる主体の連携を深める取組を推進する。これらにより、基本方針にある多様な地域コミュニティの活性化に向けたまちづくりを進めていく。

※政策の客観指標評価のうち、令和3年度評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「令和3年度政策評価結果（一覧）」のページを参照。

【令和3年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	自治会等加入率（％）	67.7	d	-	-	-	-
2	NPO法人数（件）	827	c	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			d	-	-	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			b	-	-	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			c	-	-	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	近所で日頃からあいさつが行われるなど、人と人とがつながり、安心して暮らせる地域になっている。		c	-	-	-	-
2	自治会・町内会等が、防災、防犯、見守り活動、町内美化等、地域のための取組を行っている。		b	-	-	-	-
3	地域活動に、NPOやボランティア、大学、企業などの様々な団体が関わり、協力している。		c	-	-	-	-
4	-		-	-	-	-	-
5	-		-	-	-	-	-
6	-		-	-	-	-	-
7	-		-	-	-	-	-
8	-		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			C	-	-	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
25	-	-	-	-	-

4

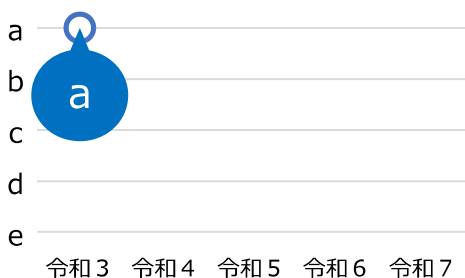
市民生活の安全

< 政策分野の基本方針 >

京都がもつ地域力を生かし、地域住民をはじめあらゆる関係機関と一層連携を深めながら、犯罪、交通事故、消費者被害・契約トラブルを予防し、被害拡大防止のために対応するとともに、被害に遭わないようよりよい防犯環境・交通安全環境を構築する。また、市民が地域における防犯活動・交通安全運動などの活動に積極的に参加し、取組の輪を大きくすることができるような施策を展開することで、すべての人が安心して安全にくらせるよりよい地域共生社会を実現する。

客観指標評価

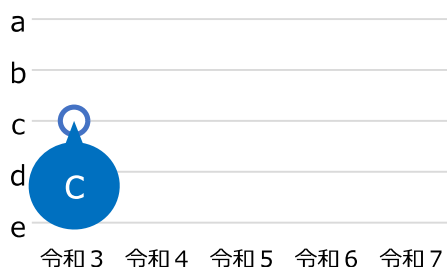
消費生活相談件数に占める助言・あっせん解決率は過去5年間の平均値に届かなかったが、市民・行政・警察等が一体となった防犯の取組の展開による刑法犯認知件数の減少、新型コロナウイルス感染症による市民の外出機会減の影響に伴う交通事故死傷者数の減少、消費者問題やエシカル消費の概念について、年齢層に応じた様々な啓発手法を採り入れた事業を実施したことによる市民の理解・認知度の向上などから、a評価となったと考えられる。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

犯罪や事故に関するニュースが日常的に報道されており、犯罪や事故が身近に起こりうるという感覚があること、コロナ禍によるデジタル化の加速度的進展等により、契約形態が複雑化・多様化したことに伴い、一部の消費者に不安が生じていることなどから、c評価になったと考えられる。



(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

市民が安全を実感した「体感治安」の現れや消費者である市民の自立意識の広がりなど、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価がa評価となったが、市民生活実感評価がc評価となったことから、総合評価結果はB評価となった。刑法犯認知件数は大幅に減少した一方で、犯罪の減少が市民の体感治安の向上に繋がっていない状況を踏まえ、令和3年度に策定する第3次京都市生活安全基本計画に基づき、「見せる防犯」の普及促進等の様々な取組を展開することで、市民が安心を実感できる安全な地域社会の実現を図っていく。また、消費生活相談件数に占める助言・解決率は直近5年間の平均値以下となっているため、令和3年度に策定する京都市消費生活基本計画に基づき、複雑化・多様化する消費者トラブルについて、様々な媒体を用いた注意喚起や各種セミナーを実施するなど、消費者被害が深刻化しないよう取り組む。

※政策の客観指標評価のうち、令和3年度評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「令和3年度政策評価結果（一覧）」のページを参照。

【令和3年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	犯罪発生(刑法犯)認知件数（件）	8,155	a	-	-	-	-
2	消費生活相談件数に占める助言・あっせん解決率（%）	99.45	d	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			b	-	-	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			a	-	-	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	-	-	-	-

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	市民・事業者等により、地域の防犯・交通安全活動が盛んに行われている。	C	-	-	-	-
2	地域のつながり・交流が深まり、犯罪等の心配が少なく、安心して安全にらせるまちとなっている。	C	-	-	-	-
3	悪質商法などによる消費者被害を防止し、被害者を救済するしくみが充実している。	C	-	-	-	-
4	消費生活に関する情報や知識を備え、みずから考え行動する消費者が増えている。	C	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		C	-	-	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
5	-	-	-	-	-

5

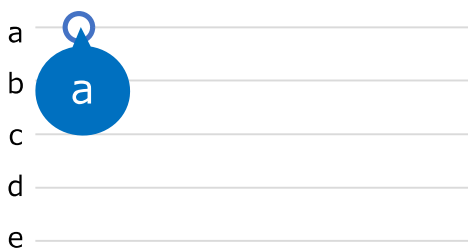
文化

< 政策分野の基本方針 >

市民の生活に息づくくらしの文化や、伝統文化から現代芸術まで幅広い文化、有形無形の文化遺産をはじめとする多様な文化を、新しい生活スタイルに合わせて維持、継承、活用しつつ、創造的に発展させていくため、持続可能な文化施策を展開する。また、文化とあらゆる政策の融合を推進し、そこから生まれる新たな価値が相乗効果を生み、文化芸術が経済や社会の発展を牽引する「地方創生のモデル都市」となるとともに、新・文化庁と連携し、日本の文化GDPの拡大や「文化芸術立国」に貢献する。

客観指標評価

政策及び施策の指標である「本市が指定、登録等をした京都文化遺産の数」が高評価となったこと、施策の指標である、文化庁京都移転に係る講座や文化芸術授業の参加者が理解や興味・関心を深めた割合に係る指標が、概ね高い評価となったことから、全体ではa評価となっている。

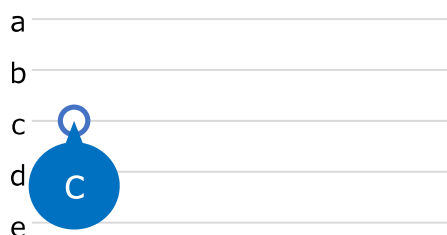


令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

新型コロナウイルス感染症の影響で、各種文化事業の中止や文化施設の閉鎖を余儀なくされたことにより、文化芸術に触れる機会や文化芸術活動を行う機会が減少したことから、c評価になったものと考えられる。



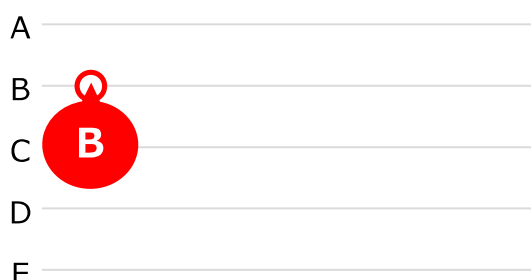
令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

文化の発信や文化遺産の継承、文化芸術活動のしくみの構築などの施策の進捗や効果が市民実感に繋がりにくいことから、客観指標評価を重視する。

政策の総合評価



令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

客観指標評価がa評価となったが、市民生活実感評価がc評価となったことから、総合評価結果はB評価となった。これを踏まえ、文化を基軸としたまちづくりをこれまで以上に推進し、文化に関わる担い手の育成や創造環境の整備、文化の活用と伝承などの取組を進めていくとともに、新型コロナウイルス感染症の影響により文化芸術発表・制作等の機会を失っている文化芸術関係者を支えていく。また、「文化芸術都市創生計画」に基づき、京都に全面的に移転する、機能強化された文化庁との連携の下、「世界の文化首都・京都」へのさらなる飛躍を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、令和3年度評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「令和3年度政策評価結果（一覧）」のページを参照。

【令和3年度】

客観指標評価								
政策の客観指標名（単位）			直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	文化施設の年間入場者数（人）		1,512,388	-	-	-	-	-
2	本市が指定，登録等をした京都文化遺産の数（件）		70	a	-	-	-	-
3	-		-	-	-	-	-	-
4	-		-	-	-	-	-	-
5	-		-	-	-	-	-	-
6	-		-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）				a	-	-	-	-
+								
下位施策の客観指標評価 平均（②）				a	-	-	-	-
↓								
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）				a	-	-	-	-

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	日々のくらしに文化がとけ込み、市民が文化に触れることが出来ている。	c	-	-	-	-
2	文化芸術活動によって、社会や経済が活気づいている。	c	-	-	-	-
3	海外との文化交流が進み、相互理解が深まっている。	c	-	-	-	-
4	有形無形の京都文化遺産が日常生活の中で生かされ、大切に守り伝えられている。	b	-	-	-	-
5	文化芸術に携わる人や応援する人が育ち、文化芸術活動が活発に行われている。	c	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		c	-	-	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
21	-	-	-	-	-

6

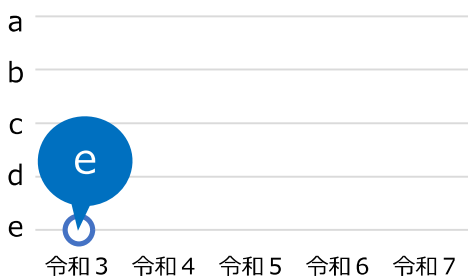
スポーツ

< 政策分野の基本方針 >

「誰もが、いつでも、どこでも、する・みる・支える、さまざまなかたちでスポーツやレクリエーションに親しみ、その環境をみんなで支え合うまちづくり」を市民、関係団体等と行政とが一体となって進める。人生100年時代を見据え、市民一人一人がスポーツを楽しむことで、健康や心の豊かさを享受するとともに、多様な仲間とつながる取組を推進する。スポーツと文化、産業、観光、環境、教育などがつながることで、京都のまちをさまざまな分野からより魅力あるものにする。

客観指標評価

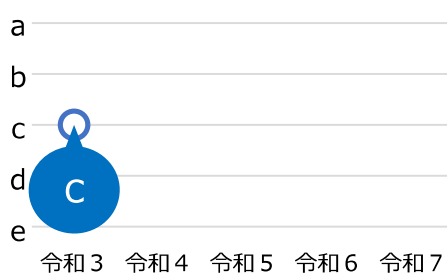
政策の指標である「週1回以上運動やスポーツをする市民の割合」はb評価となったが、新型コロナウイルス感染症の影響でスポーツ施設が一時的な閉鎖を余儀なくされるとともに、京都マラソンのオンラインによる開催や多くのスポーツ大会が中止となったこと等により「直接スポーツを観戦した市民の割合」や「スポーツ活動にボランティアとして参加した市民の割合」の指標がe評価となったことなどから、全体でもe評価となった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

新型コロナウイルス感染症の影響で、スポーツ施設が一時的に閉鎖されるとともに多くのスポーツ大会が中止となり、スポーツ活動自体が制限を受けたため、「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「支えるスポーツ」が十分に実施できていないという実感には至っていないことなどから、c評価になったと考えられる。



(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

市民がスポーツを楽しむことができ、多様な人がつながり、まちの魅力が向上するなど、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価がe評価となったが、市民生活実感評価がc評価となったことから、総合評価結果はD評価となった。引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつ、関係団体等と連携して、市民がスポーツやレクリエーションに親しむ環境づくりを進め、スポーツが身近にある健康で心豊かなくらしの実現、スポーツの絆が生きる社会の推進、スポーツによるまちの魅力向上に取り組んでいく。

※政策の客観指標評価のうち、令和3年度評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「令和3年度政策評価結果（一覧）」のページを参照。

【令和3年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	週1回以上運動やスポーツをする市民の割合（％）	58.1	b	-	-	-	-
2	市内で直接スポーツを観戦した市民の割合（％）	7.5	e	-	-	-	-
3	スポーツ活動にボランティアとして参加した市民の割合（％）	2.3	e	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			d	-	-	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			e	-	-	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			e	-	-	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	市民がスポーツを楽しみ、健康で心豊かにくらしている。		c	-	-	-	-
2	市民がスポーツを楽しんだり、スポーツを支える活動を通じて、様々な人と人がつながっている。		c	-	-	-	-
3	市民がスポーツに身近に触れる機会があり、スポーツがまちの魅力を高めている。		d	-	-	-	-
4	-		-	-	-	-	-
5	-		-	-	-	-	-
6	-		-	-	-	-	-
7	-		-	-	-	-	-
8	-		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			C	-	-	-	-

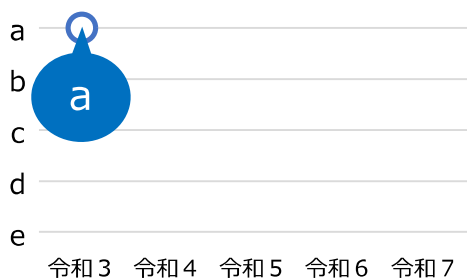
政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
27	-	-	-	-	-

< 政策分野の基本方針 >

京都のまちに息づく伝統文化とそれを支える匠のわざ，人々の生活文化や美意識，さらには地域企業の優れた技術力，大学の集積といった京都の「強み」を生かすとともに，国内外からの起業家の呼び込みやクリエイティブな企業の進出によって，文化と経済の融合，異分野との交流による新たなイノベーションを加速し，世界に羽ばたく企業を生み出す等，Society5.0 を先導する産業創造都市をめざす。また，地域コミュニティを支える地域企業の感染症をはじめとするさまざまなリスクへの対応力の強化とともに，担い手の確保や，伝統産業，商店街の振興，京都の豊かな食生活を支える流通体制の整備等によって，持続可能な京都経済の好循環を生み出し，市民生活の豊かさにつなげていく。

客観指標評価

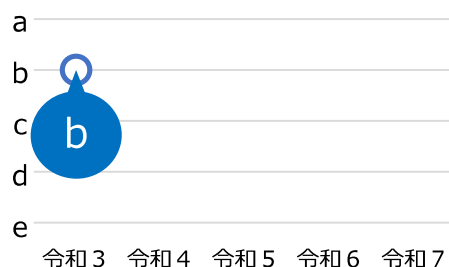
政策の客観指標である「市内中小企業者の企業経営実績」は，新型コロナウイルス感染症の影響により前年度比減であるが，企業経営実績が大きく下落したリーマンショック時をベースとする目標値からは，あまり乖離せず評価が下がらなかったこと，施策の客観指標では半数以上が a 評価となったことから，総合で a 評価となった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

新型コロナウイルス感染症の影響により「京都には活気ある商店が地域のにぎわいを生み出し，快適に買い物ができるまちである」等が c 評価になったと考えられるが，「地域とともに発展し，大切にされている企業やお店が沢山ある」等は b 評価となっており，これまでの地域企業への支援の成果が一定，市民の実感にも表れていると考えられる。



(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

企業への支援や事業環境の整備，伝統産業，商店街の振興，流通体制の整備など，効果測定に客観指標の数値が直結するため，客観指標評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価が高評価となったことから，総合評価は A 評価となった。新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中，事業者がコロナ禍を乗り越えられるよう，今後も，事業者の生の声をお聞きしながら，まずは下支え支援にしっかりと取り組む。

また，あらゆる業種でのデジタル化の推進による生産性の向上を図るとともに，社会課題の解決に挑戦するスタートアップや第二創業企業を一層支援するなど，中長期的な観点からも京都経済の活性化につなげていく。

併せて，中央市場の再整備を着実に進めるなど，市民の皆様にも安全・安心な生鮮食料品等を安定的に供給できるよう，引き続き取り組んでいく。

※政策の客観指標評価のうち、令和3年度評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「令和3年度政策評価結果（一覧）」のページを参照。

【令和3年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	市内中小企業者の企業経営実績（％）	9.8	b	-	-	-	-
2	京都府の完全失業率（％）	2.6	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			b	-	-	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			a	-	-	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	-	-	-	-

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	京都には、地域とともに発展し、大切にされている企業やお店が沢山ある。	b	-	-	-	-
2	多様な人々が京都でいきいきと働いている。	c	-	-	-	-
3	京都では、独自性の高い製品が生み出され、世界で活躍する企業が多く集まっている。	b	-	-	-	-
4	国内外から起業家など様々な人が集まり、世界に羽ばたく企業が生まれている。	c	-	-	-	-
5	現代のライフスタイルにも対応した伝統産業製品が生み出され、次世代を担う、つくり手が育ってきている。	c	-	-	-	-
6	京都は活気ある商店が地域のにぎわいを生み出し、快適に買い物ができるまちである。	c	-	-	-	-
7	安心・安全で品質の良い食材が流通している。	b	-	-	-	-
8	京の食文化が受け継がれ、発展し続けている。	b	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		b	-	-	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
11	-	-	-	-	-

< 政策分野の基本方針 >

市民生活と観光との調和の下、地域や社会の課題解決に貢献するとともに、感染症や災害などの危機や環境問題への対応力を強化することで持続可能な観光を実現し、市民が温かく観光客を迎え入れ、市民と国内外からの観光客との交流が盛んになり、観光が市民生活の豊かさにつながるまちをめざす。そのために、観光地域づくりの推進を担う京都市DMOはもとより、観光関連業界と連携し、観光課題の解決をはじめ市民生活を最優先に、安心・安全、豊かさの向上、地域文化・コミュニティの継承・発展等につながる観光の京都モデルを全力を挙げて推進する。そして、引き続き観光の質を高めることで、市民、観光客、観光事業者の満足度を向上させるとともに、観光とMICEによる経済効果を京都経済全体に波及させ、市民生活の豊かさ、文化の継承・創造につなげ、将来にわたり京都が発展する好循環を構築する。

客観指標評価

※令和3年度に開催する「観光振興計画2025」マネジメント会議において、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて客観指標の目標値を設定する予定であることから、客観指標評価は行わない。

a _____
b _____
c _____
d _____
e _____
令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

新型コロナウイルス感染症の影響により「国際会議、イベント、企業ミーティングや研修旅行等が盛んに開かれ、世界中から多様な人々が集まっている」等がc評価になったと考えられるが、「観光は産業振興や雇用拡大、文化や景観の維持・向上、公共交通の充実など、地域に恩恵をもたらしている」等がb評価となっていることから、観光が市民生活の豊かさの向上につながっており、その効果が市民の実感にも一定表れていると考えられる。

a _____
b 
c _____
d _____
e _____
令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

市民生活と観光が調和し、市民が豊かさを感じられる、持続可能な観光を目的とするなど、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価

A _____
B 
C _____
D _____
E _____
令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

市民生活実感評価がb評価となったことから、総合評価結果はB評価となった。現在、新型コロナウイルス感染症の影響により観光需要が激減し、京都観光はかつて経験したことのない危機的な状況にある。

今後、令和3年3月に策定した「京都観光振興計画2025」に基づく取組を進めることにより、コロナ禍からの力強い回復を図り、市民生活と観光の調和の下、観光の力によって市民の暮らしの豊かさの向上、地域や社会の課題解決、さらには、SDGsの達成に貢献し、感染症や災害などの様々な危機や環境問題に対応していく持続可能な観光の実現を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、令和3年度評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「令和3年度政策評価結果（一覧）」のページを参照。

【令和3年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	市民生活への観光の影響（％）	-	-	-	-	-	-
2	観光消費額単価（円）	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			-	-	-	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			-	-	-	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			-	-	-	-	-

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	観光は産業振興や雇用拡大，文化や景観の維持・向上，公共交通の充実など，地域に恩恵をもたらしている。	b	-	-	-	-
2	文化財や街並み，食，買い物等の多様な魅力が高まり，観光客が高い満足を感じている。	b	-	-	-	-
3	京都では，観光業に携わる人たちが，やりがいと誇りをもって活躍している。	b	-	-	-	-
4	京都では，災害や感染症などの様々な危機に対応できる安心・安全な観光が実現している。	c	-	-	-	-
5	国際会議，イベント，企業ミーティングや研修旅行等が盛んに開かれ，世界中から多様な人々が集まっている。	c	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		b	-	-	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
18	-	-	-	-	-

9

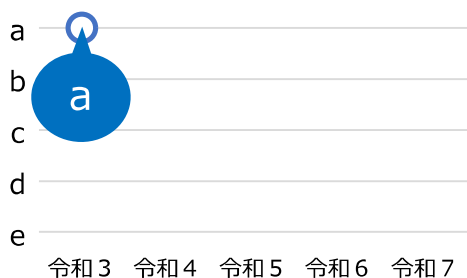
農林業

< 政策分野の基本方針 >

京都市の農林業は、市民に食料や木材を供給するとともに、食文化、文化財、伝統芸能や伝統産業等、京都の人々のくらしや文化を支える産業として発展してきた。二酸化炭素吸収源としての機能をはじめ、生物多様性の保全や美しい景観の形成等の多面的な機能を有する農地や森林が今後も適切に保全されるよう、産業としての魅力を高めて担い手を確保し、持続可能な農林業をめざす。さらに、台風や集中豪雨等の自然災害の多発や環境の変化に対して高い対応能力を備えた農林業を推進し、市民生活の安全・安心の確保につなげる。また、京都市の文化芸術の継承・発展を支える京都ならではの農林業の振興を図るとともに、市民が自然とふれあう機会を創出する。

客観指標評価

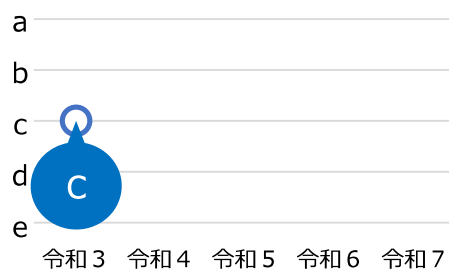
農林業機械の導入促進や農林産物の需要拡大等の取組により、農林業の生産性・収益性が向上するとともに、継続的な有害鳥獣対策により、農林産物被害額も着実に減少している。さらに、農林業に関心のある人数も堅調に増加したことから、a 評価となったと考えられる。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

農林業従事者の減少や市民と森林との関係性の希薄化等によって、農林業施策の効果が市民には実感しにくくなっていることから、c 評価となったと考えられる。



(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

農林業関係者を主な対象とする政策であり、市民全体の生活実感には政策の効果が反映されにくいと考えられるため、客観指標評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価がa 評価となったが、市民生活実感評価がc 評価となったことから、総合評価結果はB 評価となった。今後、「農林行政基本方針」及び「四方よし！京都市木の文化・森林活性化SDGs」等に基づき、農林業の生産性・収益性の向上やレジリエンスの向上等に取り組むことで、農林業の成長産業化や農地・森林・河川の多面的機能の発揮に繋がる施策を着実に推進していく。また、市民生活実感評価については、農林業施策の効果は農林業に従事しない市民には実感しにくいことから、c 評価となっているが、今後、農林業施策や市内農林産物の魅力の発信、農業体験や森林に触れ合う機会を充実すること等により、市民生活実感評価が向上するよう取り組む。これらにより、ひとと農地・森林をいかした持続可能な「新しい農林業」の実現を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、令和3年度評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「令和3年度政策評価結果（一覧）」のページを参照。

【令和3年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	単位面積当たりの農業産出額（万円）	389	a	-	-	-	-
2	林業産出額（百万円）	1,082	a	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			a	-	-	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			a	-	-	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	-	-	-	-

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	農林業が魅力的な産業となり、後継者や新たな担い手が育っている。	d	-	-	-	-
2	災害や自然環境の変化、野生鳥獣などによる農林業被害への未然防止対策が進んでいる。	c	-	-	-	-
3	農林業が京の食文化や伝統産業を支え、環境や健康づくりなどの様々な分野にも役立っている。	c	-	-	-	-
4	農地や森林と身近に触れ合える機会が増え、自然が大切にされている。	c	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		c	-	-	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
19	-	-	-	-	-

10

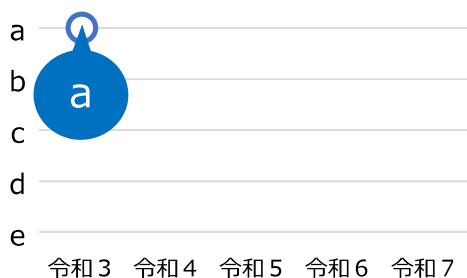
大学

< 政策分野の基本方針 >

千年を超えて、都市の機能・文化が継承・発展しつつ、世界にも開かれた稀有な都市「京都」で学ぶ意義を再確認し、その魅力を高めるとともに、国内外に強力に発信することで、留学生、社会人を含む多様な学生を受け入れ、これからの社会の担い手を京都から輩出する。また、京都のすべての大学が個性・特色を生かしながら発展し続けられるよう、大学コンソーシアム京都と連携し、大学の取組を全面的にサポートするとともに、集積された大学の知・学生の力を最大限に生かした、産業・文化の創造・発展、地域の活性化をより一層進める。

客観指標評価

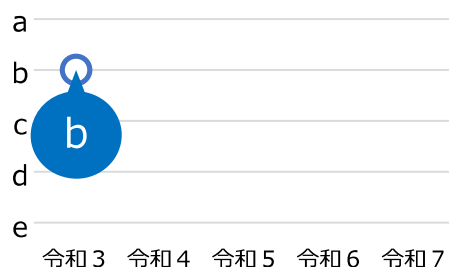
政策の指標である「市内の学生数が全国の学生数に占める割合」について、少子化が進む中であっても現状を維持でき、高評価となったこと、施策の「大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化」などで高評価が得られたことから、a 評価となった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

学生の地域での活躍や、卒業後の市内企業への就職についての生活実感はc 評価であるものの、「大学のまち」として国内外から様々な学生が集まっていることや、学びの環境が充実していることは高い評価を得ており、全体としてはb 評価になっていることから、施策の効果が一定、市民実感に表れていると考えられる。



(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

学生や市民など誰もが学びたくなる環境の充実や学生の地域活動への参画、大学との連携による地域活性化など、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価



市民生活実感評価がb 評価となったことから、総合評価結果はB 評価となった。引き続き、「大学のまち」「学生のまち」の取組を進めるため、地域と連携したまちづくり活動等を行う学生数の増加、京都で学ぶ魅力発信を通じた国内外からの多様な学生の受け入れを図る。また、京都で学んだ学生が将来も京都に住み、活躍する好循環づくりに取り組む。これらの取組を実施することにより、基本方針に掲げる大学の知・学生の力を最大限に生かした、産業・文化の創造・発展、地域の活性化をより一層進めることにつなげていく。

※政策の客観指標評価のうち、令和3年度評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「令和3年度政策評価結果（一覧）」のページを参照。

【令和3年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	市内の学生数が全国の学生数に占める割合（％）	4.9	a	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			a	-	-	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			c	-	-	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	-	-	-	-

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	「大学のまち」として学びの環境が充実し、京都ならではの学びと出会うことができる。	b	-	-	-	-
2	世界中から集まる留学生や研究者が京都で学び、国際社会で活躍する人材が育っている。	b	-	-	-	-
3	学生が地域活動などで活躍、成長し、地域を活性化している。	c	-	-	-	-
4	京都で学んだ学生が、市内企業に就職するなど、卒業後も京都で活躍している。	c	-	-	-	-
5	大学の人材や研究成果が市民や企業の成長に役立っている。	b	-	-	-	-
6	「大学のまち」「学生のまち」として国内外から様々な学生が集まっている。	a	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		b	-	-	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
22	-	-	-	-	-

11

国際

< 政策分野の基本方針 >

京都が世界に誇る歴史や伝統文化、産業、緑豊かな風土に加え、環境や景観等の先進的な取組など、京都の魅力を広く世界に発信するとともに、世界中から多種多様な人々を積極的に受け入れ、さまざまな交流を通して新しい価値を創造する世界の都市「KYOTO」をめざす。また、あらゆる市民が外国文化への理解を深めることにより、異なる文化的背景や価値観等の多様性が生かされるまちづくりを推進する。

客観指標評価

※新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度の状況を踏まえて客観指標の目標値を設定する必要があることから、客観指標評価は行わない。

a _____
b _____
c _____
d _____
e _____
令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

多様性を生かしたまちづくりの推進がc評価であるものの、京都の魅力発信や海外の都市との様々な交流がb評価で、一定の評価が得られていることから、施策の周知や国際交流協会等との地道な協力が実を結び、市民の実感にも表れていると考えられる。

a _____
b  _____
c _____
d _____
e _____
令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

市民主体の国際交流や市民の多文化共生への理解など、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価

A _____
B  _____
C _____
D _____
E _____
令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

市民生活実感評価がb評価となったことから、総合評価結果はB評価となった。今後は、国際都市ビジョンに基づき、世界への魅力発信や市民主体の国際交流・協力の推進に向け、都市の成長に繋がる情報発信や環境整備、都市間交流や担い手育成を図っていく。また、多様性を生かしたまちづくりの推進に向け、コミュニケーション支援、教育環境や福祉、防災等の生活支援や、地域社会における異文化理解への促進により一層取り組む。これらにより、基本方針にある新しい文化を創造し続ける国際都市や多文化が息づくまちづくりの実現を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、令和3年度評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「令和3年度政策評価結果（一覧）」のページを参照。

【令和3年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	外国籍の住民基本台帳登録者総数（人）	45,637	-	-	-	-	-
2	国際会議開催件数（件）	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			-	-	-	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			-	-	-	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			-	-	-	-	-

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	京都には、世界から留学、ビジネス等を目的として訪れる人々を引き寄せる魅力がある。	b	-	-	-	-
2	京都は、海外の都市と文化のみならず経済・芸術など様々な分野で活発に交流し、国際社会にも貢献している。	b	-	-	-	-
3	市民、民間主体の国際交流が行われ、様々な世代で外国文化への関心や理解が高まっている。	c	-	-	-	-
4	国籍、民族、文化等が違ってても互いに理解し合い、文化の多様さを感じられるまちとなっている。	c	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		b	-	-	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
26	-	-	-	-	-

12

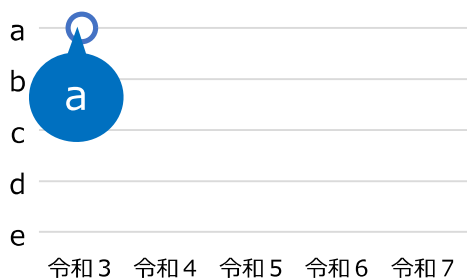
子ども・若者支援

< 政策分野の基本方針 >

妊娠前から子ども・若者までの切れ目ない支援をさらに推進し、京都ならではの市民力・地域力・文化力を結集して市民の生き合う力を高めることで、子ども・若者が将来の展望をもって成長するとともに、子育て家庭をはじめ、結婚・出産・子育ての希望をもつすべての人が幸せを感じ、くらし続けたいと思えるまちを実現する。

客観指標評価

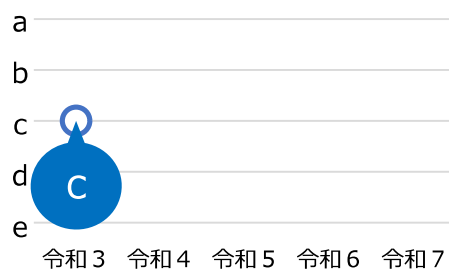
新たな受入枠の確保や関係機関の協力による保育所等及び学童クラブ事業の待機児童数ゼロの達成、妊娠・出産に係る産科医療機関等との密な連携の推進、各局区等が設置する附属機関等への青少年登用の促進により、a評価になったと考えられる。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

「身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる」という生活実感はb評価と、概ね肯定的に評価されているが、コロナ禍における事業や活動等の制限又は中止等により、子ども・若者や子育て家庭が交流する機会が減少したため、その他の生活実感はc評価になったと考えられる。



(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

子育て世帯を主な対象とする政策であり、市民全体の生活実感には政策の効果が反映されにくいと考えられるため、客観指標評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価はa評価となったが、市民生活実感評価がc評価となったため、総合評価結果はB評価となった。ウィズコロナ社会に対応していくため、感染症対策については、引き続き全力で取り組んでいく。そして、子どもたちの健全な育成と、安心して子育てができる環境づくり、持続可能なまちづくりといった各取組について進めていくことにより、基本方針にある切れ目のない支援を一層推進し、子ども・若者が将来の展望をもって成長するとともに、子育て家庭をはじめ、結婚・出産・子育ての希望をもつすべての人が幸せを感じ、くらし続けたいと思えるまちの実現を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、令和3年度評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「令和3年度政策評価結果（一覧）」のページを参照。

【令和3年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	妊娠11週以下での妊娠の届出率（％）	94.6	a	-	-	-	-
2	保育所等待機児童数（人）	0	a	-	-	-	-
3	学童クラブ事業待機児童数（人）	0	a	-	-	-	-
4	青少年(13歳～30歳)が参画している附属機関等の割合（％）	51	a	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			a	-	-	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			a	-	-	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	-	-	-	-

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	子どもが尊重され、希望を持って健やかにたくましく育っている。	c	-	-	-	-
2	若者に様々な可能性が開かれ、自分が希望する将来像に向けて行動している。	c	-	-	-	-
3	子育て家庭がともに学び相談し合うことで、子育ての楽しさや素晴らしさを実感している。	c	-	-	-	-
4	子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる	b	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		c	-	-	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	7	-	-	-	-

13

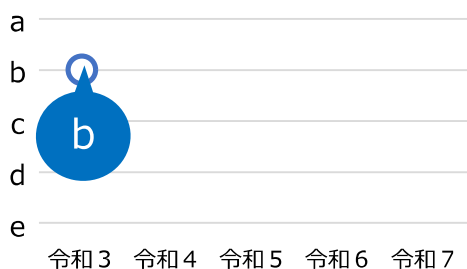
障害者福祉

< 政策分野の基本方針 >

障害のある人が、地域で自立した生活を営み、社会のさまざまな分野の活動に参加できるよう、障害者施策の総合的、分野横断的な展開を図る。これにより、障害のある人もない人も、すべての人が尊重し合い、地域社会のなかで、お互いに認め合い、支え合い、安心してらせるまちづくりを推進していく。

客観指標評価

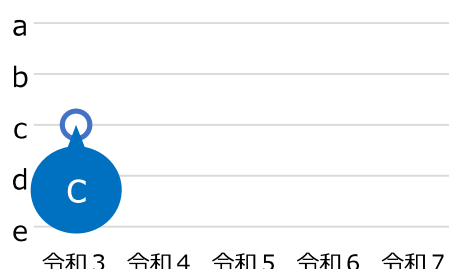
政策の指標である「障害者福祉施設からの地域生活移行人数」は、重度の障害のある方が多く、受入体制が十分でない等の理由から地域移行が進みにくく、d評価になったと考えられるが、「福祉施設からの一般就労移行人数」は目標を達成し、また、施策の評価の平均もa評価となったことから、全体ではb評価となっている。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

障害のある人への理解が、社会全体に十分に広がっているとは言えないことから、全ての生活実感においてc評価になったと考えられる。



(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

障害のあるひとを主な対象とする政策であり、市民全体の生活実感には政策の効果が反映されにくいと考えられるため、客観指標評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価がb評価となったことから、総合評価結果はB評価となった。引き続き、分野別計画である「はぐくみ支え合うまち・京都ほほえみプラン」に基づき、関係機関や障害者団体等と連携のもと、各施策の目標達成に向けて取り組んでいくことで、基本方針にある障害のある人もない人もお互いに認め合い、支え合い、安心してらせるまちづくりの実現を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、令和3年度評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「令和3年度政策評価結果（一覧）」のページを参照。

【令和3年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	障害者福祉施設からの地域生活移行人数（人）	13	d	-	-	-	-
2	精神科病院に長期入院している患者数（人）	1,572	c	-	-	-	-
3	福祉施設からの一般就労移行人数（人）	230	a	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			c	-	-	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			a	-	-	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			b	-	-	-	-

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	障害への理解が進み、障害のある人もない人も、認め合い、支え合って安心してくらしている。	c	-	-	-	-
2	障害のある人が住み慣れた地域でくらしやすくなってきている。	c	-	-	-	-
3	障害のある人の就労や社会参加が進んできている。	c	-	-	-	-
4	バリアフリーの建物や、誰もが使いやすいデザインの製品が普及し、くらしやすくなってきている。	c	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		c	-	-	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	12	-	-	-	-